

第9回定例岡山県教育委員会議事録

- 1 日 時 令和3年8月20日(金)
開会14時15分 閉会15時37分
- 2 場 所 教育委員室
- 3 出席者
- | | |
|--------------|------------|
| 教育長 | 鍵本 芳明 |
| 委員(教育長職務代理者) | 上地 玲子 |
| 委員(教育長職務代理者) | 服部 俊也 |
| 委員 | 松田 欣也 |
| 委員 | 梶谷 俊介 |
| 委員 | 田野 美佐 |
| 教育次長 | 池永 亘 |
| 教育次長 | 梅崎 聖 |
| 学校教育推進監 | 平田 善久 |
| 教育政策課 | 課長 大西 治郎 |
| | 副課長 江草 大作 |
| | 総括主幹 土井 隆史 |
| 教職員課 | 課長 大重 義法 |
| 生涯学習課 | 課長 栗原 宏之 |
- 4 傍聴の状況 0名
- 5 附議事項
(1) 公立学校教職員の懲戒処分について
- 6 報告事項
(1) 中学生の読書環境に関する実態調査の結果について

7 議事の概要

開会

非公開案件の採決

(教育長)

本日の議題の審議に入る前に、議題の公開の可否について決定したい。本日の議題のうち、附議事項（１）は、人事案件であることから、教育委員会会議規則第12条に基づき、非公開とするよう発議する。

委員から、議題を非公開とする発議はないか。

(委員全員)

(特になし)

(教育長)

この発議は、討論を行わずにその可否を決定することとなっているので、直ちに採決に入る。

附議事項（１）は、非公開とすることに賛成の委員は挙手願う。

(委員全員)

挙手

(教育長)

全会一致により、本案件は非公開とすることに決したが、会議の進行上、公開案件について先に審議する。

報告事項（１）中学生の読書環境に関する実態調査の結果について

・生涯学習課長から資料により一括説明

(委員)

中学生が読書を好きになったきっかけは何か。

(生涯学習課長)

テレビドラマ化された本を読むことや、ライトノベルから入るケースが多い。また、相関関係は不明であるが、資料の5ページのグラフを見ると、読書好きな生徒は本を読むことと同じくらいの割合でマンガも読むことが読み取れる。

(委員)

資料7ページの読書をしない理由で「YouTubeなどで動画を見る」の回答割合が多いが、そのような子どもたちはどのような動画に興味を持ち閲覧しているのか。

(生涯学習課長)

本調査では把握していない。

(委員)

国語の授業と読書の因果関係はあるのか。また、国語の授業の中で読書について取り組んでいることはあるのか。

(生涯学習課長)

国語の授業での取組については分からないが、授業の中での読書は読解力や表現力の向上につながると考える。学校での取組としては朝読書を県内の小学校で

95%、中学校で91%、高校で47%の学校が行っており、朝読書により読書を習慣にする一つのきっかけになると考える。

(委員)

朝読書の中で教員がおすすめの本の紹介等を行っているのか。

(生涯学習課長)

個々の教員の取組については分からないが、資料6ページの読書のきっかけの回答項目である「学校の先生や図書館（図書室）の先生がおすすめの本・絵本を教えてくれること」の回答割合は低い。

(委員)

岡山市も同様の調査を行っているのか。また、不読率の変化はどう推移しているのか。コロナ禍の影響はあったのか。

(生涯学習課長)

岡山市には平成元年から一緒に読書推進の取組を行うことを提案をしているが、連携には至っておらず、岡山市が独自で同様の調査を行っているか不明である。また、不読率の時系列変化については、平成27年度に行った「青少年の意識等に関する調査」において中学生の不読率は17.2%であり、令和元年度の「スマホ等に関する実態調査」において中学生の不読率は18.8%であった。今回の調査では中学生の不読率は全国平均並みの12.8%であり、数値の改善が見られる。コロナ禍による変化については調査の中では把握できないが、これからの図書館の在り方を考える際に検討項目の一つとして挙げられる。

(委員)

今の時代において電子書籍の存在は必要不可欠であり、電子図書館についても推進してほしい。子どもたちが身近に本を読むことができる環境を整備することが重要である。

(委員)

大人になっても本を読むことは楽しいことであると思わせるような取組を行うことが重要である。

(生涯学習課長)

生涯学習課としては、子どもたちが読書に親しみ人生を豊かにすることを目標に、取組を行っているところである。

(委員)

読書が「どちらかといえば嫌い」「嫌い」と回答した生徒のうち、71.9%は読書のきっかけとして朝読書を挙げており、朝読書が苦痛に感じていないか心配である。朝読書の方法についても検討してほしい。

(生涯学習課長)

朝読書を苦痛に感じている生徒がいる可能性は確かにある。もっとも、読書が「どちらかといえば嫌い」「嫌い」と回答した生徒の71.9%が朝読書がきっかけで読書を行っていることを考えると、朝読書を止めてしまうと「どちらかといえば嫌い」「嫌い」と回答した生徒のほとんどが読書をしなくなる可能性がある。ご指摘のとおり、朝読書で読む本を検討するなど方法を検討してまいりたい。

(委員)

本を読むことを嫌いになったきっかけについても調査しているか。

(生涯学習課長)

本調査では把握していない。

(委員)

最近ではスマホ育児が主流になっており、絵本の読み聞かせではなく、動画を見せたりする保護者も多い。動画を見るのが当たり前の時代になったため、読書をしない理由に、「YouTubeなどで動画を見る」の回答割合が多いのではないかと考える。

(委員)

読書が「どちらかといえば嫌い」「嫌い」と回答した生徒が「好き」「どちらかといえば好き」に転じた際に、何がきっかけで好きになったのかを調査すると良いと考える。

(教育長)

読書が嫌いだった生徒が友達の薦めた本がきっかけで読書に熱心になるケースも少なくない。本の内容を調査しても良いと考える。

(生涯学習課長)

昨年度、「好きな本の総選挙」を行い、「もっとおもしろ読書辞典」を作成し中学生に配布した。現在運用している電子図書館でも、そこで取り上げた本を主に選書し、提供している。

(委員)

活字の書籍を購入した場合と電子書籍を購入した場合とでどちらが実際に読んでいるか、という調査があり、電子書籍の方が購入してからきちんと読まれているという結果がある。電子書籍は不読率の改善においても有意義であると感じる。

(委員)

資料の1ページの参考に記載されている全国学校図書館協議会の「学校読書調査結果」について、全国の高校生の不読率の高さに驚いた。岡山県のみデータはあるのか。

(生涯学習課長)

本調査は中学生向けのため把握していないが、平成27年度に行った「青少年の意識等に関する調査」において高校生の不読率は29.9%であり、令和元年度の「スマホ等に関する実態調査」において高校生の不読率は44.6%であった。部活動等で忙しいことに加えて、高校3年生になると受験勉強で忙しくなることが影響していると考えられる。

(委員)

読書の意識について「どちらかといえば嫌い」「嫌い」と答えた生徒を少なくとも「どちらかといえば好き」と思わせるような取組が重要であり、嫌いな原因を調査したり、「どちらかといえば好き」と回答した生徒が元々好きだったのか、あるいは何かきっかけで好きになったのかを調査することが不読率を改善させるための第一歩である。

(委員全員)

了 承

以下、非公開のため省略。

閉会